



TITLE:

京大広報 No. 430

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 430. 京大広報 1992, 430: 325-332

ISSUE DATE:

1992-06-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209222>

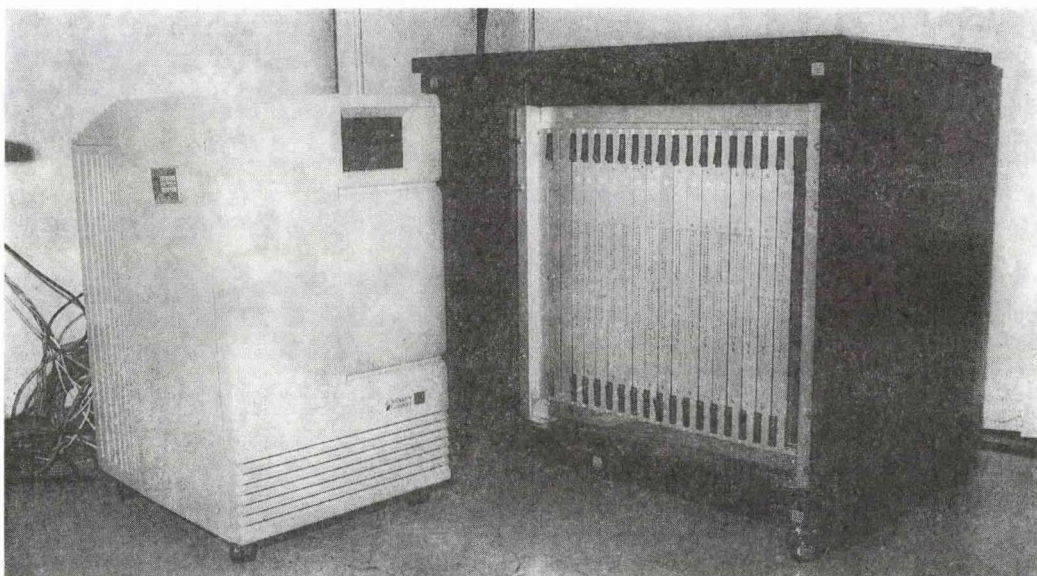
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 430

京都大学広報委員会



並列計算機 ADENA

—関連記事本文 328 ページ—

理論最大計算能力は2.6 ギガフロップスで、512 メガバイトの記憶容量を持っている。(1 ギガフロップス=1秒間に浮動小数点演算が10億回できる演算能力)

目 次

<大学の動き>

井村総長、連合王国訪問…………… 326

外国人留学生歓迎パーティ…………… 326

<紹介>

独立専攻・工学研究科応用システム科学専攻…………… 328

平成4年度創立記念行事

音楽会の開催…………… 329

<随想>

北京の氣

名誉教授 竹内 実…………… 330

<コラム>

ふらんす：「方法」の神話と「平等」の神話

法学部教授 位田 隆…………… 331

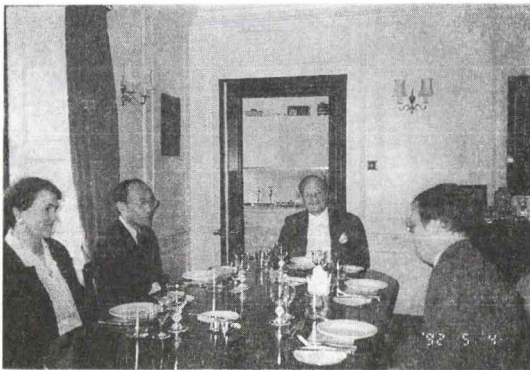
訃報…………… 332

＜大学の動き＞

井村総長、連合王国訪問

井村総長は、5月1日から、オックスフォード大学との学術交流に関する打合せ等及び連合王国における入試制度、高等教育・研究機関の実情調査のため、同国へ出張し、5月10日帰国した。

オックスフォード大学では、サー・サウスウッド副学長その他関係教官との懇談を通じ、高等教育、学術研究の課題等、及び昨年12月同副学長が来学した際に同大学と締結された「学術交流に関する一般的覚書」に基づいた今後の学術交流につ



オックスフォード大学サー・サウスウッド副学長（右から2人目）

いて、意見を交換した。

さらに、ロンドン大学（ロイヤルメディカルスクール）での特別講演、関係教官との懇談及びヨーク大学でのソウル副学長その他関係教官との懇談を通じ、高等教育及び学術研究等についての状況並びに今後の在り方について、意見を交換した。

同国における大学入試にも種々の問題があり、改善策が検討されていること、また、多くの大学で外国から資金を導入し、新しい研究所などの建設を行うなど、伝統的な同国の大学にも新しい動きがあることがうかがわれた。



ヨーク大学ソウル副学長（左端）

外国人留学生

歓迎パーティ

本年4月に入学した外国人留学生の歓迎パーティが、5月20日（水）午後6時から、京大会館において開催された。

歓迎パーティは外国人留学生、総長及び指導教官等約180名が出席して行われた。初めに井村総長の挨拶があり、続いて岩井学生部長の発声による乾杯でパーティが始まり、新入留学生のスピーチなどを交え、終始なごやかな雰囲気の中に進められ、午後8時頃閉会した。

なお、新規の外国人留学生の内訳は、別紙のと

おりである。

また、本学の外国人留学生の総数は、808名である。（平成4年5月1日現在）



国 名 等	学部	大 学 院		研究生 研修員 聴講生	合 計	国 名 等	学部	大 学 院		研究生 研修員 聴講生	合 計
		修士 課程	博士 課程					修士 課程	博士 課程		
ア メ リ カ		2		10	12	タ ン ザ ニ ア			1		1
ア ル ジェ リ ア				1	1	中 国	13	9	14	37	73
イ ギ リ ス		1		2	3	チ リ				1	1
イ ラ ク			1		1	ド イ ツ				13	13
イ ラ ン			1		1	ニュージーランド				1	1
イ ン ド			1	2	3	バングラデシュ		1	1	3	5
インドネシア		3	3	2	8	フ ィ リ ピ ン			1	1	2
エ ジ プ ト				2	2	フ ラ ン ス				2	2
エ チ オ ピ ア				1	1	ブ ラ ジ ル				6	6
オーストラリア		1			1	ブ ル ガ リ ア				1	1
オーストリア				1	1	ベ ト ナ ム		1		1	2
オ ラ ン ダ				1	1	ペ ネ ズ エ ラ		1			1
カ ナ ダ		1			1	香 港	1				1
韓 国	1	21		31	53	ボ ー ラ ン ド			1	1	2
ギ リ シ ャ				2	2	マ レ ー シ ア	2				2
C I S (旧ソ連)				2	2	ミ ャ ン マ ー		1			1
シ ン ガ ポ ール	1				1	メ キ シ コ				1	1
ス ウ ェ ー デ ン				2	2	ユ ー ゴ ス ラ ビ ア				1	1
ス イ ス				1	1	リ ベ リ ア			1		1
タ イ	2			2	4						
台 湾		4	3	11	18	計	20	46	28	142	236

(注) 国名等は通称による。

(学生部)

＜紹介＞

独立専攻・工学研究科応用

システム科学専攻

システムとは相互作用する諸部分の集合であって、その構成部分へと分解すると消えてしまうような全体的特性を把握することが大切であると言われている。

一方、逆に考えれば、複雑かつ大規模な対象の統一的な扱いが可能になれば、もっと複雑かつ大規模な対象を扱いたいという要望を持つことは当然である。従って、システム科学・工学においては、常に、モデル化能力・計算能力、等の限界を如何にして乗り越えるか、を考えて行かなければならない。

限界を乗り越えて新しいものを作り上げようとするとき、理想から出発するトップダウン接近法と現実の状況を出発点とするボトムアップ接近法があるが、これら双方の接近法を駆使しなければならない。従って、高い理想を窮めようとするとともに、進んだ数学的な方法論を用いて、現実に関根ざしたシステムを構築するための、研究・教育を目指さなければならない。具体的な成果のひとつとしては、本専攻システム基礎論講座と松下電器産業株式会社による「民間等との共同研究」により開発された並列計算機システム〔ADENA〕（表紙写真参照）が挙げられる。このシステムは数学を専門とする研究者が、数値解析のための理想的なシステムを目指して開発したもので、我国の主要大学で利用が進んでいる。

本専攻は、以上のような観点から、幅広い専門領域を統一した視野の下に、各分野の相互関連・依存・協力を重視しつつ、それらを統合する方法論を確立し、発展させて行くために、昭和62年に独立専攻として創設された。

創設当時は、2基幹講座、7協力講座であったが、現在は、5基幹講座、4協力講座の9講座になっており、活発に研究・教育が行われている。これら5つの基幹講座において行われている研究・教育の内容を以下に紹介する。

システム基礎論講座

一般システム科学の分野における基礎理論の確立に向けての研究、システムの動的挙動に関する理論並びに実際的手法、制御科学に関する研究、さらには、偏微分方程式モデルの研究及び並列計算機の研究と並列処理によるシミュレーション手法等の開発が行われている。

応用人工知能論講座

モデロンと呼ばれる新しい人工知能要素の研究、CAD/CAM、システム理論からの知能要素へのアプローチ、インテリジェント自動制御、数値計算における学習制御的課題、等の研究が行われている。

機械電子制御論講座

生産システムなどの解析、診断、制御とその知能化に関する研究を行っており、具体的な研究課題として、人工知能の新しい推論手法の開発、大規模プラントの故障診断システムの構築、信号処理アルゴリズムの並列処理、ニューラルネットワークモデルを用いた制御、等が挙げられる。

画像情報学講座

種々のシステムにおける情報インターフェースとして、重要な位置を占める「画像」を研究対象として、その処理・理解の研究、画像計測など画像からの情報獲得手法に関する研究を行うとともに、各種情報を画像として表示する情報の可視化に関して研究を進めている。

ロボティクス講座

高度な知能化を基礎として、ロボット工学、機械制御工学、制御理論等についての研究を行っており、特にロボットの機構の力学的解析及び制御系設計の理論的研究及びその実験的検証が進められている。

なお、協力講座は、水管理システム講座、交通システム講座、情報通信講座、応用情報学講座であり、それぞれ防災研究所水資源研究センター、工学部交通土木工学教室、工学部数理工学教室、大型計算機センターからのものである。

（工学部）

平成4年度創立記念行事 音楽会の開催

本学では、6月18日の創立記念日を祝し、下記の音楽会を開催いたします。本学教職員・学生の来聴を歓迎します。

記

日 時 平成4年6月17日(水)午後6時開演
 会 場 京都会館第二ホール
 左京区岡崎(市バス・東山二条下車)
 名 称 “田宮堅二(トランペット)とその仲間たち”
 演奏者 田宮堅二(トランペット), 水戸浩一(トランペット), 猶井正幸(ホルン), 神谷 敏(トロンボーン), 稲川栄一(チューバ), 大竹くみ(キーボード)

プログラム(予定)

R. シュトラウス : 祝典入城曲
 ガブリエリ : カンツォン
 ヘンデル : 「水上の音楽」より
 ジーベルト : 現代のオラトリオ
 「タイタニック号の沈没」
 一休 憩一
 デュカス : ベリのファンファーレ
 世界のメロディー : フランス, ドイツ, スイス, アメリカ, アルゼンチン
 クラーク : トランペット・ヴォランタリー
 J.S. バッハ : 二つのコラール
 ヴェルディ : 歌劇「アイダ」より
 凱旋行進曲
 ワグナー : 歌劇「ローエングリン」より
 第三幕第三場 騎士の行進

(演奏者略歴)

田宮 堅二

1968年桐朋学園大学卒業。1972年西ベルリン音楽大学卒業。ソロ、室内楽の分野で西ドイツ中心にヨーロッパ、アメリカで活躍。現在、日

本へ本拠を移し、ソリスト、室内楽奏者として活躍中。桐朋学園大学助教授。

水戸 浩一

1987年桐朋学園大学卒業。1989年西ドイツ政府給費留学生として西ドイツ国立ハンブルク音楽大学でP. カーレンゼー教授に師事。1990年斎藤記念オーケストラに参加。1991年ハンブルク国立歌劇場特別研修生。

猶井 正幸

桐朋学園在学中の1973年、東京交響楽団に入団。1976年、西ドイツ、ケルン大学に入学し、1977年よりミュンヘングラットバッハ、ビーレフェルトの各オーケストラを歴任後、ボン国立歌劇場管弦楽団に1982年入団。大阪フィルハーモニー首席奏者。

神谷 敏

桐朋学園に学び、1971年東京交響楽団、1974年より新日本フィルハーモニーの首席奏者を勤め、1978年渡欧。同年よりベルリン・フィルの契約団員、1981年カッセル市立歌劇場管弦楽団に首席奏者として入団。

現在、NHK交響楽団首席トロンボーン奏者。桐朋学園大学専任講師。

稲川 栄一

東京芸術大学卒業後、ベルリン音楽大学に学び、同大学を最優秀の成績で卒業。西ドイツ、ケルン市立歌劇場管弦楽団に入団。現在、東京芸術大学等で後進の指導。

大竹 くみ

1984年桐朋学園大学音楽学部入学。三善 晃学長に師事。1988年同大学を卒業し、1989年第58回日本音楽コンクール作曲部門第一位。現在、日本現代音楽協会会員。

入場無料

備考：職員証又は学生証等を持参して下さい。定員は950名先着順とします。

(学生部)

洛書

「法律学は論理的明晰さを旨とし、法は何人にも平等である。」お

や、これと同じような言い方をどこかで聞いたことがある。「フランス語は」、「フランスは」と主語を置き換えればびったりはまる。しかし、フランスは本当にそうなのか。冷戦体制が崩壊し、EC統合が進む中で、フランスの将来に想いを馳せてみたい。

「明晰ならざるものフランス語にあらず」といわれる。フランス語は、意味を正確明解に表わすという点において、とりわけ法律用語としては英語より適している。しかし、フランス語に象徴される「明晰さ」「論理性」が、実は一つの神話を生み出している。

論理的明晰さを貫くためには、一定の方法が欠かせない。デカルトの『方法序説』に代表されるごとく、フランス人はフランス的方法論に強い自信を持っている。その一つが論文

などの書き方に見られる。法律学の論文は第一章、第二章、その中を第一節、第二節、さらに1)、2)と二分法をとるのが良いやり方だとされる。また文学系は三分法だという。確かにある問題を分析する際に、例えば二つの大きな柱を見出すことは、論理や説得性の上で極めて有用である。しかし、二分割を強調するあまり、所与の問題を何でも二つにわけて論じれば良いと考えてしまうのでは、話が違ふ。二分法の本質は、分析の中から「論理の糸」を見出し、その上で総合(synthèse)を導くことにあり、それによって論理的思考能力が養われる。能力を持つ者は素晴らしい「糸」を見出し、高度な業績を上げることができる。しかし、安直に二分法を用いれば、何の新味も深みもない分析になってしまう。彼我の差はまさに紙一重であって、フランスがこれまで様々な分野で最先端を歩み、とにかくも大国の威厳を保ってきたのは、この精神がうまく活かされる状況があり、また

そうした能力をもった人達が輩出してきたからであろう。

また、フランスは平等の国という。しかし現実には極めてリジッドな階級社会である。単に入口が平等に開かれているに過ぎない。同じ入口を入っても、能力のあるものは上に行き、到達したレベルによって待遇に厳然とした差がある。この能力を証明する道具が学歴や資格を示すディプロム(diplôme)であり、ここにもう一つの神話がある。

フランスでは一般に、ある職業にはその専門的知識を持つ人が、あるポストにはそれに相応しい資格を持つ人が、就くシステムとなっている。昇進システムは年功序列制ではないから、最初からできるだけ高い地位に就かなければ将来への展望がない。初速が大事だ。それゆえ高いポストに就職するためにはディプロムが必要

と皆が言う。そこで皆が何かのディプロムを目指すこととなり、ディプロムを持っている人が多くなる。するとディプロム自体の価値

が相対的に低下するから、再び就職が難しくなる。そこで他人よりも多くの、高いディプロムを取ろうとする。しかし皆がそう考えるから、上級学校への進学率が高くなり、複数のディプロムを持つ者、高いディプロムを持つ者が増え、またまたディプロムの価値は低下する。この悪循環にさらにもう一つの悪循環が重なる。ディプロムが高いことはそれだけ専門性も高いわけだから就職対象部門も狭まる。また狭い門に同じく高いディプロムを持つ者が集るからますます狭くなる。その上、社会の必要や高度科学技術の進展等の様々な理由で、専攻も増加する傾向にある。例えばパリ第2大学の法律系のD.E.A.とD.E.S.S.(博士前期課程に相当)では27もの専攻がある。これでは、ある専攻の資格者は、類似だが異なる部門では就職できないという過度の専門化の弊害が生ずる。社会党政権下でも失業率が10%を超えるのはここに一つの大きな原因があるろう。

フランス：「方法」の神話と「平等」の神話

位 田 隆 一

しかも、こうしたディプロムの闘いの上に、行政学院 (ENA) や理工工学校 (Polytechnique), 高等師範 (Ecole normale) の御三家を頂点とするグランドゼコール群があり、それらの卒業生は引く手あまたとなる。彼らはジェネラリストとして官民両界におけるリーダー層を形成する。しかもジェネラリストであるがゆえに様々の部門を移動することも少なくない。ここでは逆に極めて柔軟性、流動性が高い。

結局のところ、フランスはエリート層と中間層そしてそれ以外のいわゆるブルーカラー層に分れた階級社会であることが判る。しかもこの階級間の区別 (もしくは差別) は表面に出ないところで厳然として存在する。大学教官についても、気の狂うような教授資格試験を突破した「教授」と、助教授、講師では、天と地程の地位の差がある。これまた「教授」というディプロムの神話なのかもしれない。

フランスで以前に「フランスはなまけものか (La France paresseuse?)」という論争があっ

た。例えばフランス人は労働時間が日本などに比べて短く、競争力に劣る、といった類である。確かにフランス人全体の平均労働時間は短い、しかしエリート層は実によく働く。朝の8時前から夜10時、11時までというのは珍しくない。ある銀行副頭取は、成功の秘訣を問われて、「眠らないこと」と答えた。フランスの頭の部分は極めて優秀かつ勤勉であり、柔軟である。が、如何せん、胴体から下の部分は上のような神話にしばられ、硬直的だ。フランスは、明晰さを重んじ、専門的能力に力をそそぎながらも、社会全体のダイナミズムは感じられなくなっている。ギリシア、ローマに遡る永い歴史の遺産は大きく深い。しかしフランスは、この歴史と伝統にあぐらをかいていたように思われる。我が愛する「美しくにフランス」の前途は、自らを包んでいる様々の神話のペールをどれほど脱ぎ捨てられるか、にかかっているように思われるのだが。

(いだ りゅういち 法学部教授)

訃 報

宮本正太郎 名誉教授

本学名誉教授宮本正太郎先生は、5月11日逝去された。享年79。

先生は、昭和11年京都帝国大学理学部を卒業後、大学院を経て、同15年理学部講師、同18年助教授に就任、同23年教授に昇任 (宇宙物理学第一講座を担当)。同33年より同大学理学部附属天文台長、同51年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を授与された。

この間、日本天文学会評議員及び理事長、学術奨励審議会専門委員、日本学術会議天文学研究連絡委員会委員長、同日食分科会委員長、国際惑星地質学会副会長、国際天文学連合日本代表、同惑星委員会幹事として学術の発展に貢献された。また著述と講演活動は本学退官後も続けられ学術成

果の社会還元に寄与された。

先生の専門は、天文学であり、研究の対象は惑星状星雲、早期特異星、太陽彩層及びコロナ、月、火星と多岐にわたり、それぞれに優れた研究業績を残された。特に1942年に発表された「太陽コロナの輝線について」は、観測事実に理論的解釈を与えてコロナが百万度であることを立証したもので、世界にさきがけた業績であった。また自ら20年にわたって火星観測を続け、火星大気の大循環や、極冠について新しい知見を得、「火星気象学」ともいうべき分野を開拓された。

これらの研究業績、学術上の貢献、学問を通じての社会的貢献により、昭和51年に紫綬褒章、昭和58年に勲三等旭日中綬章を授与された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(理学部)